

張型については、地理的変異は認められなかった(図-4)。なお、タイヌビエ・ヒメタイヌビエは、すべてイヌビエのCタイプに酷似した直立型であった。なお、ヒメイヌビエは、図-5に示すようにイヌビエの開張型に似た草姿であった。

なお、イヌビエの中期生育と出穂期における草型の推移を

みたのが図-6である。中期生育で草型が直立型であった系統は出穂期においてもすべて直立型であったが、中期生育で開張型であった系統は出穂期でも直立型はなく、中間型～開張型であった。中期生育で中間型であった系統は出穂期では直立～開張型まで変異が大きかった。(次号につづく)

統計データから

主要農産物における国別輸入額割合 (2020年)

世界の食料需給は、気候変動の影響や人口の増加などで、中長期的に逼迫が懸念されるなか、ロシアのウクライナ侵攻を機により一層不安定さが増している。

そのようななか、我が国の食料自給率(カロリーベース)は37.17%(2020年)と低く、そのうえ、主要農産物の国別の輸入額における割合を見みると、米国が21.9%、次いで中国が10.6%で、カナダ、タイ、豪州と続き、特定の国に依存しており、我が国の食料供給のリスクの一つとなっている。

そこで、主要農産物における国別輸入額割合(表;2020年実績)を見ると、自給率15%の小麦は米国に45.1%、カナダ

に35.5%を、自給率6%の大豆は米国に74.8%を依存している。また、牛肉の自給率は36%であるが、飼料自給率(25%)を加味すると僅か6%に低下する。豚肉も50%から6%に、鶏肉もまた66%から8%になる。なかでも、飼料のうち、穀物のとうもろこしは国産が少なく自給率が限りなく0に近く、輸入額の72.7%を米国に依存している。

農林水産省はこのような世界の食料需給を踏まえ、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これに輸入及び備蓄を適切に組み合わせ、食料の安定供給を図ることが必要としている。(K.O)

表 主要農産物の国別輸入割合 (2020年)

小麦	輸入額	割合	大豆	輸入額	割合	牛肉	輸入額	割合
世界全体	162,763,547	100.0%	世界全体	159,159,732	100.0%	世界全体	357,371,803	100.0%
米国	76,410,757	46.9%	米国	115,828,052	72.8%	豪州	162,213,965	45.4%
カナダ	59,455,330	36.5%	カナダ	22,141,260	13.9%	米国	150,702,445	42.2%
豪州	26,431,298	16.2%	ブラジル	18,463,434	11.6%	カナダ	17,880,758	5.0%
その他	466,162	0.3%	その他	2,726,986	1.7%	ニュージーランド	13,747,974	3.8%
						メキシコ	6,830,889	1.9%
						その他	5,995,772	1.7%

注) 輸入額の単位: 千円

とうもろこし	輸入額			割合		
	うち飼料用	うちその他		うち飼料用	うちその他	
世界全体	351,591,307	253,130,767	98,460,540	100.0%	72.0%	28.0%
米国	224,556,936	145,547,656	79,009,280	63.9%	41.4%	22.5%
ブラジル	120,492,955	104,906,213	15,586,742	34.3%	29.8%	4.4%
南アフリカ	3,106,055	1,803,942	1,302,113	0.9%	0.5%	0.4%
その他	3,435,361	872,956	2,562,405	1.0%	0.2%	0.7%

注) 輸入額の単位: 千円

資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成